

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のための医療保障制度強化

Strengthening Social Health Protection Towards Universal Health Coverage

(2018年12月3日～12月14日)

1. 本研修の概要

「すべて人が生涯を通じて必要な時に基礎的な保健サービスを負担可能な費用で受けられる状態」と、定義されるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成は、2015年に採択された国連の持続可能な開発目標の一つとして掲げられている。日本では1961年の国民皆保険達成以降、様々な制度的拡充を図ることによりUHCを達成し、それを維持している。本研修は、わが国の経験を参考に研修員がそれぞれの国の社会・経済・文化等の諸制度に応じて、UHC達成に向けた今後の保健医療政策を構築・運営できる能力の向上を図っている。

2. 実施方法

国立保健医療科学院は国際協力機構(JICA)と連携して、2013年度より「アジア地域におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のための社会保険制度強化」研修を実施してきたが、2016年度から対象国をアフリカ地域にも拡大し、研修名を「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のための医療保障制度強化」と改めて研修を実施している。当研修では保健医療財政を中心に、UHC達成に向けて改善・強化が必要となる様々なテーマについて、わが国の経験を交えた講義を行うとともに、京都府福知山市役所、市民病院および社会保険診療報酬支払基金神奈川支部などの視察も実施した。また、ディスカッション、インセプションレポートの発表、ディスカッションノートの作成・発表を通じて、研修員間の情報共有や意見交換を促した。

3. 参加者

今年度はカンボジア(1名)、エジプト(1名)、ガーナ(1名)、ケニア(2名)、ラオス(1名)、ミャンマー(1名)、ナイジェリア(1名)、セネガル(2名)、スリランカ(1名)、タイ(1名)、ベトナム(1名)、ザンビア(1名)の12カ国より、保健省の行政官を中心に14名の研修員が参加した。

2週間の研修期間を通して研修員は熱心に参加し、お互いの国の状況についても活発な意見交換が行われた。

【研修風景】

